

議案Ⅰ 平成18年度 電気・電子・情報系専門部会事業報告

平成18年8月1日

平成19年7月31日

1. 組織概要 正会員 203名(208名)

賛助会員 12社(10社)

(2007.07.31 現在)

()内は昨年度実績

2. 会誌「実践教育ジャーナル」

2007年3月31日発行 (Vol. 22 No1)

実践報告 2006年実践教育訓練研究発表会 「実践報告」

ティータイム 「初めての学会発表」

新役員紹介

3. 実践教育研究発表会

2006年度 実践教育研究発表会

会場 東北職業能力開発大学校

会期 2006年9月28日(木)～9月30日(土)

メインテーマ: 「地域に貢献するもづくりの技能・技術」

一般講演 75件(機械系33件、電気系24件、建築系18件)

ポスターセッション 9件(機械系4件、電気系3件、建築系2件)

企業展示 31ブース 来場者数 延べ 995名

4. 系専門部会総会

2006年9月28日(木)

事業報告、決算報告、事業計画、予算

5. 幹事会・編集委員会

第1回幹事会

2006年9月28日(木) (於: 東北職業能力開発大学校)

議事 協会活動報告、2006専門部会定期総会資料事前審議、

2006年度発表会の役割分担の確認

第1回編集委員会

2006年9月28日(木) (於: 東北職業能力開発大学校)

議事 編集体制の確認、原稿収集方法と内容について

(1) 討議事項：編集体制の確認、原稿収集方法と内容について

①次期ジャーナル編集体制

原稿取りまとめ担当（生方副編集委員長）、広告担当（佐藤副編集委員長）

②次期ジャーナル分担

○巻頭言：岡野理事

○実践報告：原稿依頼（佐々木、中井、後藤、滝本、中村、各編集委員）

今回発表会座長担当する方は、各セッションから2件程度＋座長（編集委員除く）に推薦依頼（寺重）小林先生（長野）、佐々木先生（東海）、千秋先生（山形）、陣内先生（関東）、中井先生 1、2件程度

○ティータイトム：後藤先生

③進行予定 昨年度より1月前倒し10月初旬くらいまでに執筆依頼文発送。（生方副編集委員長）

10月初旬くらいまでに依頼する。（佐藤副編集委員長）

12月初旬原稿締め切り。

12月中旬、データを確認後編集長に転送。

12月下旬、入稿

1月中旬、初稿

1月下旬 校正（すべての編集委員で分担）

2月上旬 最終校入稿

2月中旬 完成

第2回幹事会及び編集委員会

2006年9月30日（土）（於：東北職業能力開発大学校）

議事 事務局体制と幹事紹介、役割担当確認、新年度協会活動、

新年度電子系分科会活動への計画等

2006年度研究発表会及び電子系総会についての意見等の集約、

2007年度次期実践研究発表会に向けて、ジャーナル誌編集委員会報告

第3回幹事会（常任幹事会）

2007年5月19日（土）（於：総合大東京能開大学校）

議題内容

(1) 部会長から新実践事務局体制についての報告 緊急事務局会議

開催日、場所 3月10日(土) 14:00～17:00

職業能力開発総合大学校東京校 2号館3F 会議室

議題 ①現事務局(相模原)閉鎖に伴う対応

②今後の活動について

資料 平成18年度総会議案書一式

新事務局体制により実践事務局を運営していくことから、系事務局への運営負担を求めることになる。具体的な移行処理等を今後検討していくことになった。

○事務局の新住所

郵便番号 185-0021

東京都国分寺市南町 2-18-35

メゾン波木井101 TEL 042-300-1651、FAX 042-300-1652

メールアドレスはこれまでと同じ

(2) 実践教育研究大会の電気系での企画等について

① 運営委員長菊池先生からの報告

○今回の実践教育研究東京大会は東京校との共催で行う。このため、これまでの実践教育研究大会とは幾分内容が違って来るところが出てくると思われる。

○現在大会中の日ごとの企画のつめを行っている。Webも更新予定。

○今回の目標として、電気系として発表は25件、ポスターセッション5件を見込んでいる。

申し込み締め切り6月15日(金)、原稿締め切り7月13日(金) 予定

○講演会ではなく、技能5輪優秀者によるデモを予定している。

② 今年度の系企画

○電気系として独自の企画として工場見学を行う。場所は系企画の日程にもよるが、東芝府中工場見学を予定する。計画案を東京校で作成、決まりしだい連絡する。

注) なお、常任幹事会以降に電子系各分科会からの要望等があり、幹事の下承を得て電子系企画を「組込みシステム分科会」、「実装技術研究分科会」の活動に変更した。

③ 宿泊関係について

○東京校で開催であるから、付近に宿泊施設は多くある。このためこれまで行って来た幹事宿泊場所の確保はせず幹事が自分で宿泊の手配をする。

④ 電気系次期事務局体制について

○次期事務局体制づくりを東京校で行う。具体的には川守田先生を中心に次期事務局

体制固めをはかる。次回の幹事会より川守田先生に参加要請をする。

6. 各分科会活動

(1) 実装技術研究分科会

1. 第1回幹事会

日時 平成19年6月2日(土) 13:30から16:30

場所 生涯職業能力開発促進センター(アビリティガーデン)研修室 出席者 5名

議題 1. 実装技術研究分科会の事業内容

①実践研発表会における実装技術セッション実施の件

東京校で開催される実践研発表会において講演を中心としたシンポジウムを行う。

②会員増への取り組み

実践研HPに分科会案内をアップするとともに、幹事が中心となって会員を増やす行動をとる。

③その他の事業展開について

実装技術に関する講演会の情報提供と参加への補助を行う。

2. JPCAショーの見学 参加者 2名

日時 平成19年6月1日(金) 13:00から17:00

場所 東京ビッグサイト

3. 実装フォーラムへの参加及び会員への資料送付 参加者 3名

日時 平成19年6月29日(金) 10:15から17:00

場所 長野県軽井沢市

(2) 組込みシステム分科会

①組込みシステム分科会 発足式

平成19年6月16日(土) 13:30~17:30

アビリティガーデン: 3F 302A セミナールーム

○電子系理事挨拶 千秋 広幸 実践研理事(電気・電子・情報系専門部会副部会長)

企業側の参加者一覧

氏 名	施設名	所属 (E メール)
溝上 浩司	(有)MIZOUE PROJECT JAPAN	取締役社長
末棟 達弥	〃	営業部 主任
石川 知之	(株)ソフィアシステムズ	営業本部 営業3部

参加者一覧表 (施設の北から順)

氏 名	施設名	E メール
千秋 広幸	山形県立産業技術短期大学校	senshu@astro.yamagata-cit.ac.jp
小玉 博史	東北職業能力開発大学校	kodama@tohoku-pc.ac.jp
永野 秀浩	関東職業能力開発大学校	h_nagano@oyama-pc.ac.jp
小林 克行	長野県工科短期大学校	koba@cs.pit-nagano.ac.jp
中谷 努	職業能力開発総合大学校	nakaya@uitek.ac.jp
玉井 瑞又	京都職業能力開発短期大学校	tamai@cs.kyoto-pc.ac.jp
大久保 欣哉	中国職業能力開発大学校	okubo@ap.chugoku-pc.ac.jp
平島 隆洋	中国職業能力開発大学校	hirasima@ap.chugoku-pc.ac.jp

②実践報告

○ 平島 隆洋 先生（中国職業能力開発大学校）による組込み機器の共同研究について
「産学連携による高度組込み機器の開発」

- ・組込み教育の現状と問題点
- ・市場適用・産業適用としての組込み
- ・製品化された組込み機器の事例

小型汎用高速高精度デジタルオシロスコープ DEBUGSCOPE の基本動作原理

50Ω系高速高精度デジタルオシロスコープ DEBUGSCOPE 2 の産学連携開発

新型 DEBUGSCOPE の構想

- ・大成功へ向けての教育展開・産学連携

○溝上 浩司 様（(有)MIZOU PROJECT JAPAN）による組込み系製品の商品開発について

- ・小型汎用高速高精度デジタルオシロスコープ DEBUGSCOPE の実機デモ
- ・50Ω系高速高精度デジタルオシロスコープ DEBUGSCOPE 2 の実機デモ
- ・小型カラー液晶搭載モバイルデジタルオシロスコープ DEBUGSCOPE 3 の実機デモ

③組込みシステム分科会（仮称）の組織体制について

○分科会の名称について

- ・最近の技術動向から、名称については、組込み分科会とする。
- ・「組込み」または「組み込み」と記述するかは、JIS の規格に従う。

○組織体制について

組織体制（案）

役職名	氏 名	施設名	備 考
主 査			
幹事（ブロック統括担当）	玉井 瑞又	京都職業能力開発短期大学校	関東・中部
幹事（東ブロック担当）	仲谷 茂樹	東北職業能力開発大学校	東地区
幹事（西ブロック担当）			西地区
事務局長	大久保 欣哉	中国職業能力開発大学校	
技術アドバイザー	石川 知之	(株)ソフィアシステムズ	企業アドバイザー
技術アドバイザー	溝上 浩司	(有)MIZOUE PROJECT JAPAN	〃

④実践教育研究協会 2008 東京大会への取組みについて

○東京大会では、当分科会の活動目的、概要などを会員に紹介する発表を 1 件行なう。

（担当：玉井（京都能開短大）、大久保（中国能開大））

○実装技術研究分科会のセッションに合わせて、当分科会のセッションを設ける。

○今回の実践報告を東京大会でも行なう。

「産学連携による高度組込み機器の開発」・・・平島（中国能開大）

「組込み系製品の商品開発について」・・・溝上（(有)MIZOUE PROJECT JAPAN）

○大久保による組込み技術に関する発表を 1 件行なう。

○現在エントリーされている発表の中から同技術要素を用いたテーマについては、当分科会のセッションの中で発表してもらう。

⑤その他

○主査、西ブロック担当幹事の人選については、分科会事務局で適任者を推薦する。

○定期的に報告会や研修会を行なえるよう企画して行きたい。

7. 出版事業

- (1) 電子工学実験書（仮称）出版に向けた打合せ会議を、平成 19 年 7 月 31 日（火）北陸職業能力開発大学校において行った。（出席者：滝本先生、小坂先生（北陸能開大）、小林先生、佐々木（東海能開大））

これまでの経緯を確認するとともに、これまでのコンセプトおよび実験項目を新たに見直し、取り組んでいくこととする。

H20 年末を完成予定として作業を進めていく。今後の予定は 19 年度の活動計画に記載している。

8. その他

- (1) 電気電子情報系の活動を広範囲に展開出来る事業を計画したい。
- (2) 会員の拡大を計る。特にポリテクセンターの会員拡大に力を入れたい。

議案Ⅱ 平成18年度 電気・電子・情報系専門部会決算報告

平成18年 8月 1日

平成19年 7月31日

決算報告は、公開資料には掲載しません。

Ⅲ 平成19年度 電気・電子・情報系専門部会事業計画 (案)

平成19年8月 1日

平成20年7月31日

(社) 実践教育訓練研究協会の平成18年度事業計画を受けて、電気・電子・情報系専門部会では、次のように平成19年度の事業計画を提案します。

1. 実践ジャーナル 各系合冊で年間4巻の発刊

編集委員会の担当により、年間の計画を企画し発刊する、年間4巻の発刊の内、1巻を発表会予稿集とし、3巻を各3系で企画・発刊する。発刊にあたってはオフセット印刷への取り組みを行なう。

2. 実践教育訓練研究協会平成19年度発表会の開催

平成17年9月27日(木)～9月29日(土)

職業能力開発総合大学校東京校

メインテーマ：「ものづくり教育の再生」

発表件数： 77件 ポスターセッション： 9件 企業展示 37ブース

3. 電気・電子・情報系専門部会平成18年度総会の開催

平成19年9月27日(木)

職業能力開発総合大学校東京校

事業報告、決算報告、事業計画、予算、次期役員体制に向けて

4. 電気・電子・情報系幹事会の開催

年間3回程度 開催予定(電子メールでの開催も検討)

5. 編集委員会の開催

年間2回程度 開催予定(電子メールでの開催も検討)

6. 電気・電子・情報系「実践活動事例討論会」

予算問題が解決するまで、しばらくの間、休止

7. 分科会活動への取り組み

(1) 「実装技術研究分科会」の事業計画

- 実践研発表会における実装技術セッションを設ける
- 実装技術に関する講演会等の情報提供と参加推進
- 会員増への取り組み
- 教材作成に向けての取り組み

(2) 「組込みシステム分科会」の事業計画

- 実践教育訓練研究協会ホームページに発足式ならびに実践報告等の内容を掲載する。
- 当分科会の会員募集ページを掲載する。
- 当分科会のメーリングリストを立ち上げる。
- 今年 10 月以降に分科会会議を開き、具体的な計画を立案する。

(3) 新たな分科会の発足に向けての検討

- これまで電子系の 2 分科会が発足しており、さらに多くの会員の参加を求めるため電気系と情報系の新規分科会の発足を検討する。

8. 出版活動への取り組み

平成 19 年 7 月 31 日 (火) 北陸職業能力開発大学校において行った電子工学実験書 (仮称) 出版に向けた会議の結果より、これまでの経緯を確認するとともに、下記の方針で出版業務を進めていく。

(1) これからの方針について

- これまでのコンセプトおよび実験項目を新たに見直し、取り組んでいくこととする。

H20 年末を完成予定として、北陸能開大、東海能開大のそれぞれに 4~5 名の作業部会を設置し取り組んで作業を進めていく。これからは、小坂先生と佐々木先生がメール等により情報交換をし、作業を進めていく。

(2) 実験書のコンセプトについて

- 実験データや使用機材の具体的なメーカー名、型式、基本スペック等を掲載する。

○より多くの現場で導入してもらうために、実用的かつユニークな内容とする。

○内容のイメージとして、従来の実験書のような堅苦しいものでないものとする。（目的、実験原理、・・・といった構成を抜本的に変える）

○写真、実体配線図を多用し学習者が独自に実験を進められるようにする。

○課題によっては、プリント基板とブレッドボードの両者を選択して、実験が行えるように、必要なデータを添付する。

○指導員の解説用のプレゼン資料（パワーポイント）を添付する。

（３）実験書モデルの作成について

○具体的な、実験書のイメージを確定するため、まずは「トランジスタの静特性」の実験項目でモデルを作成してみる。

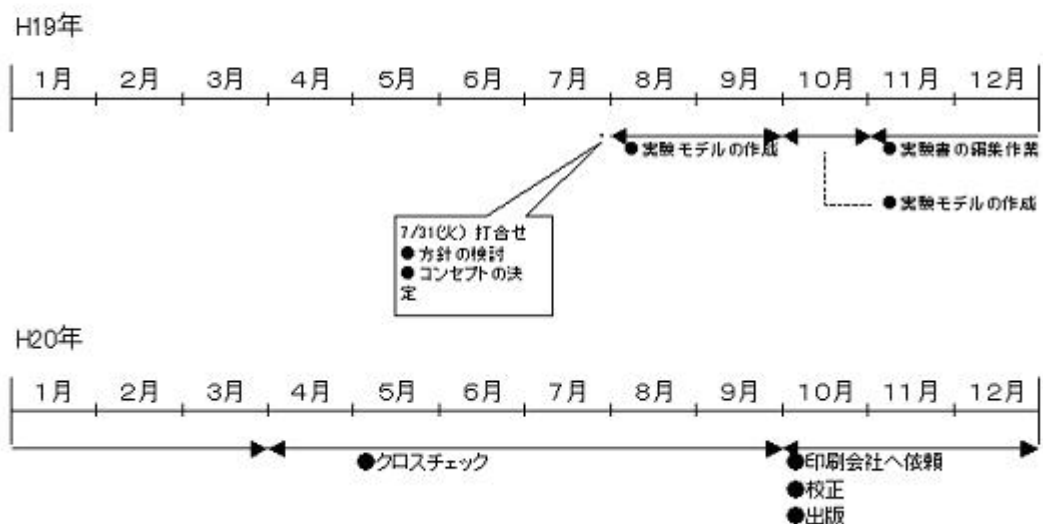
○今回の打合せに参加した、４名がそれぞれに作成してみる。作成したモデルは、関係者に配信し、意見を募る。

（４）スケジュールの検討

下記のスケジュールで進めることとした。

電子工学実験書 出版スケジュール

平成19年7月31日



9. インターネットの活用への取り組みについて

○実践教育訓練研究協会HPの中の専門部HPの充実と活用を計り「電気・電子・情報」系の活動内容を会員に広める。

○E-mailを活用した会員間の情報交換に取り組む

議案Ⅳ 平成19年度 電気・電子・情報系専門部会予算（案）

平成19年 8月 1日

平成20年 7月31日

予算(案)は、公開資料には掲載しません。

電気・電子・情報系専門部会役員と担当部署

部会長（理事）	工藤 光昭	（東北職業能力開発大学校附属秋田職業能力開発短期大学校）
副部会長（理事）	岡野 一雄	（職業能力開発総合大学校）
副部会長（理事）	千秋 広幸	（山形県立産業技術短期大学校）

常任幹事

編集委員長代理	生方 俊典	（東京都立産業技術高等専門学校 荒川キャンパス）
分科会担当	永野 秀浩	（関東職業能力開発大学校）
広報担当	古井 英則	（職業能力開発総合大学校東京校）
HP 担当	中谷 努	（職業能力開発総合大学校）
事務局長	奈須野 裕	（東北職業能力開発大学校）
庶務（出版）兼務	〃	

幹 事

中澤 直樹	（東北職業能力開発大学校）	庶務幹事
小坂 大吾	（北陸職業能力開発大学校）	出版幹事
佐々木英世	（東海職業能力開発大学校）	出版幹事
小林 克行	（長野県工科短期大学校）	広報幹事
玉井 瑞又	（京都職業能力開発短期大学校）	HP 幹事
平島 隆洋	（中国職業能力開発大学校）	編集幹事
楠原 良人	（九州職業能力開発大学校）	分科会幹事
大久保欣哉	（中国職業能力開発大学校）	庶務（出版）幹事

事務局

事務局長	奈須野 裕	（東北職業能力開発大学校）
事務局次長	中澤 直樹	（東北職業能力開発大学校）
会 計	小玉 博史	（東北職業能力開発大学校）

編集委員会

編集委員長	寺重 隆視	（広島国際大学）
副編集委員長	生方 俊典	（東京都立産業技術高等専門学校 荒川キャンパス）
副編集委員長	佐藤 崇志	（職業能力開発総合大学校東京校）
編集委員	佐々木 進	（東北能開大附属青森職業能力開発短期大学校）
	松葉 孝治	（近畿職業能力開発大学校）
	後藤 雄治	（大分大学）
	滝本 貢悦	（北陸職業能力開発大学校）
	中村 信也	（職業能力開発総合大学校東京校）

編集連絡員

中野 亜求了（沖縄職業能力開発大学校）

石本 直幸（沖縄職業能力開発大学校）

塩田 孝芳（九州能開大附属川内職業能力開発短期大学校）

盛舛 美春（ポリテクセンター兵庫）

実践広報委員

実践ニュース編集担当 中谷 努（職業能力開発総合大学校）

佐藤 崇志（職業能力開発総合大学校東京校）

HP担当

広報委員会連絡員 玉井 瑞又（京都職業能力開発短期大学校）

広報委員 小玉 博史（東北職業能力開発大学校）

今年度は幹事の改選年度ではありませんので、幹事の変更はありません。しかし、大久保常任幹事が中国能開大に転勤されたことから、常任幹事から幹事に変わります。このため電子系事務局で常任幹事の仕事（庶務（出版））を兼任します。

また、次期事務局を東京校で担当、川守田先生を次期事務局長として体制固めをはかるために、次回の幹事会より川守田先生に参加要請をします。